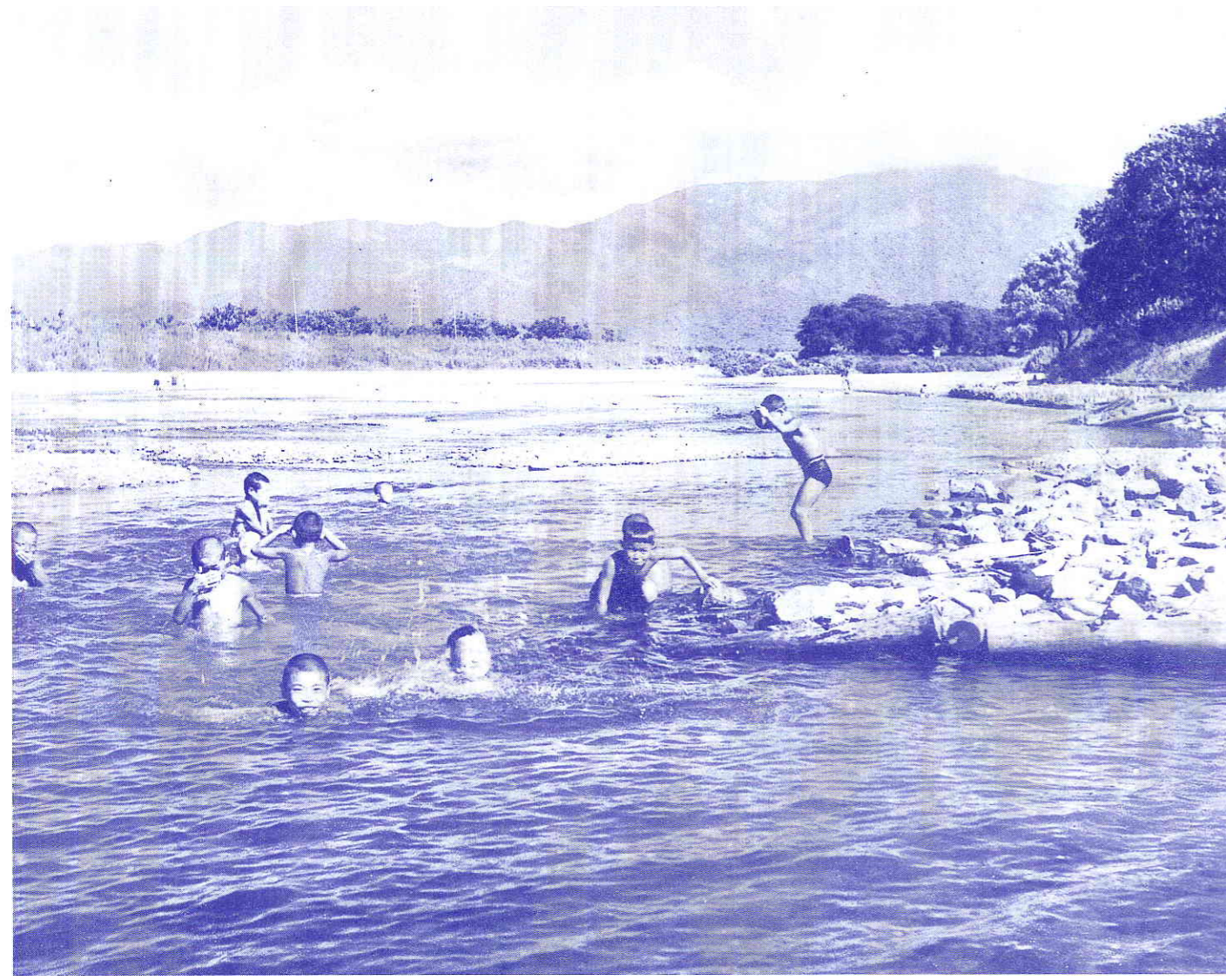


No.3
2007年 9月1日発行

水辺のひろば



昭和30年代は子供たちの水泳の格好の場所でした。(篠田正文氏撮影/昭和30年頃の加治川。「私の加治川写真展」応募作品より)

学びの扉

松浦小学校区内生物調査

6月11日、松浦小学校4年生の総合学習が、加治川ネット会員を講師に開催されました。

学習場所は、校区内の六日町集落内にある川。児童たちは説明を聞いた後、バケツで水を汲み上げ、濁りや透視度などの水質調査を行いました。続いて、「幻の魚 イバラトミヨ」を観察するため、場所を移動してイバラトミヨの棲息する土水路へ。

児童たちは、思い思いの網さばきで必死に魚を追いかけていますが、なかなか捕まえることが出来ず、ここで六日町集落の人たちの出番です。地域の人たちの指導で、児童たちは、網さばきも上手になり、イバラトミヨやスナヤツメなど、多くの生き物を捕まえることができました。

今回の調査で、20種以上の生き物が確認されています。自然の残る地域の素晴らしさ、それを児童たちの多くが感じ取ってくれたらと思います。



参加しませんか? イベントガイド その2

第8回阿賀北池沼調査

秋の恒例となった池沼調査です。今年は、加治川地域の池沼の生物、植物、水質などを調査します。

と き：10月14日(日) 午前9時30分～正午
集 合 場 所：大天城公園駐車場

調査場所：加治川地区内から2箇所選定。
集 合 場 所 に 車 を 止 め、乗 り 合 い で 調 査 地 へ 行 き ます。

持 ち 物：網、バケツ、袋、長靴。
網は加治川ネットでも用意します。

参 加 対 象：どなたでも可。
た だ し 小 学 3 年 生 以 下 は 保 護 者 同 伴。

参 加 費：300円(資料、飲み物代)

〈申し込み・お問い合わせは〉
NPO法人 加治川ネット21事務局
電話 (0254)31-4111 FAX (0254)31-4088
E-mail kjn21@ml.shibata.ne.jp

平成13年度の池沼調査から、宮古木地内にある「大堤」を紹介します。「大堤」は明治初期に築造された農業用水で、池の大きさは1000m×200m程の台形状で、奥が深く広々としています。昭和58年度に堤体が改修され、周辺には桜が植えてあり、春には花見のよいスポットとなります。

生物調査は、堤の上からでは水深があり直接採取するには不向きだったため、ここから流れ出る吐口からの水路に網をいれました。タイリクバラタナゴ、アブラハヤ、ウグイ、シマドジョウ、ヨシノボリ、ミヤマトンボヤゴ、ヨコエビ、イシガイ、



大堤から米倉方面を眺む。

自然観察シリーズ 池沼探検隊③ 宮古木地内(大堤)

オオタニシ、サワガニ等たくさんの水生生物が確認されました。植物では、スイバ、ススキ、ワラビ、オオバコ、ガズミ等が周辺に繁茂し、その中の水が流れています。

県道からも近く、釣り糸がありましたので、結構人が訪れているようです。鴨が何羽か泳いでいました。冬には飛来地になつている場所なのかもしれません。



しばたの自然

**―秋の七草を
探してみよう―**

秋には、赤や黄色の小さな果実がたくさん、大変おいしそうに実っています。自然の山野では、まずい実や有毒な実がほとんどですので注意が必要です。さて、昔々の万葉の時代に好まれ、詠まれたという秋の七草を探してみよう。秋の七草は春の七草と違い、目で楽しむ植物といわれています。

この加治川周辺域では、萩の花(ハギ)、尾花(ススキ)、葛花(クズ)の3種類の植物は簡単に見つかります。しかし、ほかの4種類、撫子(ナデシコ)、女郎花(オミナエシ)、藤袴(フジバカマ)、朝顔の花(キキョウ)はなかなか見つかりません。(※カッコ内は現代の呼称です)。

万葉の時代を想像しながら、皆さん、秋の七草を探してみてください。

話は変わりますが、この夏、アスパラを食べましたか。新発田市内では地場産アスパラをPRするため、いろいろなイベントが実施されたようです。近年は一年中いつでも口にすることができるようですが、新鮮な旬のアスパラの味は格別。塩茹で、バター炒めなどシンプルな料理で十分楽しめます。時には野菜の「旬」を感じてみませんか。

御意見、御感想などありましたら、事務局までお知らせください。

《編集後記》

今年もまた、大きな地震が新潟県を襲いました。中越地震のときも、美しい棚田などの田園風景が地震により一変しましたが、今回もまた、「放射能物質を含む水の流出」という風評被害で、新潟県の美しい海が汚されてしまいました。多くの爪痕を残した災害、被災された皆さんにお見舞い申し上げます。

話は変わりますが、この夏、アスパラを食べましたか。新発田市内では地場産アスパラをPRするため、いろいろなイベントが実施されたようです。近年は一年中いつでも口にすることができるようですが、新鮮な旬のアスパラの味は格別。塩茹で、バター炒めなどシンプルな料理で十分楽しめます。時には野菜の「旬」を感じてみませんか。

御意見、御感想などありましたら、事務局までお知らせください。

NPO法人 加治川ネット21
会員募集

年会費：個人 2,000円 / 法人 5,000円
事務所所在地：新発田市小戸886-1
電話：(0254)31-4111
FAX：(0254)31-4088
Mail：kjn21@ml.shibata.ne.jp
ホームページアドレス：
http://www.inet-shibata.or.jp/~kjn21/
会費振込先：
郵便局 00500-5-35812

地域を愛する……
「美しい地球環境の
保全を願って」
……新発田あやめ生活学校

新発田市の美しい環境を次の世代に残すことは大人の責務と考え、学習会や講演会のほか、数年前から買い物袋持参運動を推進しています。

全国生活学校連絡協議会では、3,000枚削減を目標に12月末まで「レジ袋減らし隊」全国運動を実施しており、当会も運動に参加しています。ごみの減量、資源の節約、温暖化防止のため、皆さんも買い物のときは袋を持参し、レジ袋の削減にご協力ください。

【お問い合わせ】
電話 0254-24-3823 (吉沢)



前年から買い物袋持参運動を推進しています。

全国生活学校連絡協議会では、3,000枚削減を目標に12月末まで「レジ袋減らし隊」全国運動を実施しており、当会も運動に参加しています。ごみの減量、資源の節約、温暖化防止のため、皆さんも買い物のときは袋を持参し、レジ袋の削減にご協力ください。

【お問い合わせ】
電話 0254-24-3823 (吉沢)

環境豆知識
環境ホルモン

「環境ホルモン」とは、内分泌攪乱化学物質と呼ばれ、特定の物質の名前ではなく、生体内の正常な働きをするホルモンの作用を阻害して、発育や生殖機能に障害を与える化学物質の総称です。

原因となる化学物質にはPCBやダイオキシン等70種余りの物質が疑われています。

日常生活でも食品添加物や即席メンの容器、缶飲料水の容器からも微量に溶け出しているとのこと。体内外を通じて漏れ出した化学物質は、長い時間に生物の体内に蓄積され、食物連鎖の中で上位生物にどんどん蓄積され、やがて人間に還ってきます。

世界各地で報告されている雌雄同体の生物や、生殖機能の衰えた生物の出現等の異常な報告は、これら環境ホルモンの影響といわれており、現在の利便性追求型社会への大きな警鐘といえるでしょう。

レポート1

「会津街道」てくてく旅
旅行記

「温故知新」をテーマに、ネットの文化事業の一つ「会津街道てくてく旅」が、9人の健脚自慢(?)が参加して、6月2日から1泊2日で行われました。昔、殿様が江戸に向かう際、旅の支度を整えたという五十公野御茶屋から旧津川町清川高原までの約31キロの行程です。

1日目は五十公野御茶屋を午前8時30分に出発し、米倉、大槻、山内、赤谷、旧三川村の綱木、新谷を経て行地までの約24キロ。赤谷では地元郷土史研究家の杉原さんに、赤谷の歴史や一つだけ残る一里塚について説明をいただき、下綱木では昔本陣のあった二瓶亮三郎さん宅(地域でお館様と呼ばれているそうです)を訪ねました。

午後4時40分、1日目の目的地の行地到着。ここでは地元阿部さんの案内で行地に残る一対の一里塚まで歩き、現地で説明を受けました。夜は、三川温泉に宿泊。足の疲れを癒し、鯉料理に舌鼓を打ち、旅の話で盛り上がりました。

2日目は午前8時40分、行地集落から諏訪峠に向けて出発。途中、ぬかるみや道なき道も通り、中の茶屋



跡、殿様や吉田松陰も休憩したという殿様街道大ぶなの木の下で休憩し、午前10時30分、諏訪峠に到着。書物によれば「難行苦行の諏訪峠越え」となっていました。予想していたよりは楽な峠越えでした。

諏訪峠から津川の旧道は、道路整備により分断され、一部しか残っていませんでした。途中、旧街道の残る脇道に入り、柳田新田に残されている一対の一里塚を見たり、石畳の残る道を歩いたり、昔の雰囲気味わいながら、清川高原に11時30分に無事到着。

「歩くということ」で、思わぬ発見があったり、人とのふれあいがあったりと、とても充実した2日間でした。

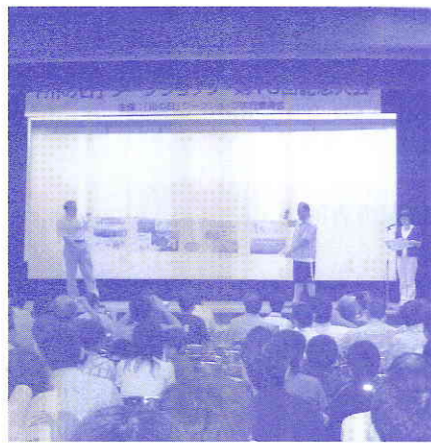
レポート2

全国『川の日』
ワークショップに参加

7月21日(土)、22日(日)に東京で開催された全国『川の日』ワークショップに参加し、全国の川仲間(約70団体)と交流を行いました。

今回は、今年の2月に開催された南東北ワークショップでグランプリを受賞した当会を含め3団体が南東北代表として参加しました。当会は、「イバラトミヨの保全活動(エコトーン)(移行帯)創出事業」を発表のテーマとし、即席の大判絵巻を作り臨みました。

1日目の分科会(一次選考)では、行政、農家の方、子どもたちなどと連携し、保全水路(土水路)として棲息地を残したことを発表し、分科会の代表に選ばれました。2日目の二次選考



本選での発表模様

では、十分説明したものの、残念ながら入賞には至りませんでした。

また、イバラトミヨのイラストをラベルにした『イバラトミヨの酒(菊水酒造)』を夜の交流会に持参して新発田の水自慢を行ったところ、試飲した皆様に大変好評でした。全国の仲間と語りあができて、大変有意義なワークショップでした。

宝物

みくつけた

蓬菜柿イチジク

新発田市五十公野地区では、古くからイチジクやサクランボなどの果樹栽培が盛んに行われてきました。イチジクは世界でもっとも古くから栽培されている果物だそうです。

新潟県でのイチジク栽培は大正時代に五十公野で栽培されたといわれています。これは日本イチジクで「蓬菜柿」といわれる品種です。県内の主力品種である「梶井ドーフィン」と比較するとやや小振りですが、生食・加工、どちらにも適する味の良い品種です。「蓬菜柿」は全国的に見ても広島など限られた地域で

しか栽培されておらず、新潟県では五十公野地区が唯一の産地です。

栽培面積は終戦後に大きく増加し、かつては五十公野地区のほとんどの農家が栽培し、地元の出荷場加工用として出荷していました。しかし、時代の変遷で缶詰加工の中止により、栽培面積が激減、現在では約450aとなってしまいました。近年は健康ブームに乗り、生食用としての評価が高まっています。

イチジクは鮮度が重視されるので、朝取り出荷を行ったり、輸送距離の短い近郊の市場に出荷したりして鮮度を保つ体制をとっています。ただ、生産者の抱える問題として、カミキリムシなどの病虫害対策と後継者対策があげられますが、在来種のこのイチジクは全国的にも希少価値のある新発田の名産であり、イチジクのお酒も販売され、いつまでも伝えたい新発田の大切な一品です。

小学生による
環境学習発表会

当会の主要活動の一つに環境学習への支援があり、小学校などへ講師を派遣して自然環境学習を指導しています。しかし、子どもたちのすばらしい学習成果を発表する場はあまりありません。そこで、学習成果発表会を企画しました。子どもたちの環境に関する取り組みをぜひご覧ください。無料です。

と き：11月18日(日)午後1時30分～3時30分
場 所：新発田市生涯学習センター講堂
発表校：米倉、荒橋、御免町、中川、藤塚の各小学校
同時開催：市内小学校環境学習パネル展示、
加治川ネット21「10周年のあゆみ展」
(時間は正午～午後4時まで)



〈お問い合わせは〉
NPO法人 加治川ネット21事務局
電話 (0254)31-4111 FAX (0254)31-4088
E-mail kjn21@ml.shibata.ne.jp

おいでください!
イベントガイド
その1

加治川ネット21
設立10周年記念事業の御案内

多くの皆様のご支援で、加治川ネット21も発足して10年が過ぎました。そこで、10周年記念事業の一つとして、近年当会の主要活動として取り組んでいる小学校における環境学習をテーマに、「環境学習発表会」と「小学校環境学習パネル展」を開催します。ぜひお出かけください。

小学校環境学習パネル展

と き：11月10日(土)～11月17日(土)
午前10時～午後10時
場 所：イオンジャスコ新発田店1階中央ロビー
内 容：市内小学生が作成した環境学習のパネル展示
同時開催：加治川ネット21「10周年のあゆみ展」